

資料 25

「事故に巻き込まれた人の証言」

凡例：（ ）内は、（証言者：その同行者）を表す。

1 朝霧駅側から大蔵海岸へ向かう人の証言

(男43:女34.男4.男2.男0)

午後7時30分ころ、歩道橋に到達した。少しずつ前(海側・南)に進んでおり、私は2才の息子を妻は0才の息子を抱き、4才の息子はその間を歩き、側の数人は乳母車を押していた。

午後7時50分過ぎころから、蒸し暑く歩道橋のほぼ中央あたりで花火が上がると止まり、その後少しずつ前に進んだが、この頃から「危ないから押さないで下さい」・「後ろから蹴られている」、「花火始まっとうやんか早う行け」、「押すな子どもがおる」など怒声が飛び、前進する間隔が狭まっていった。

午後8時20分ころ西側手すり、階段の手前12~13メートル付近ではほとんど動かず立っていることも難しくなり、周りの人の協力で2才の息子を手すりの中にいれ、左右の人達と同じように左腕でアクリル壁を突き、右腕で手すりを握り息子を護っていた。丁度夜店の真上におりその混雑も目の当たりでき、胸ポケットのケイタイを取り出してもらい110番、周りでも110番、住所・名前を聞いて「対処します」、「そちらに向かいます」とのんびりとした対応のようであり、花火終了前には圧力で失神する人や、悲鳴もあっちこっちであがり110番に「この声が聞こえるやろう、早よう来てくれ」と叫びのようなものになっていた。階段下周囲は人で埋まり階段にいる人は降りるにも降りられず、真下(橋出口)より4~5メートルに警官5~6人がいたので、みんなでアクリル壁をたたき状況を伝えようとしたが、警官は夜店をみたり、行ったり来たりするばかりであった。花火が終わり人混みが橋の入り口に向かってくるのがわかり、思わず「戻れ」と駅側に向かって大声で怒鳴ったところ、「戻れ、戻れ」コールが沸き上がり、シェルターの上から駅側に向かって身振りをし「戻れ」コールをする人も現れ、シェルターの上の女性からの「少しずつ駅の方へ戻っているよ」の声を聞きホットした瞬間に事故が起こった。

海側より強い圧力がかかり、内臓が飛び出しそうな感覚を覚え、すぐに更に強い力を感じて、しばらくその場で膠着していた。足が浮き、スローモーションのように海側へ傾いていき、意識もうろうとし、気が付くと手を突いて座り、倒れ込んできている何人もの人の下から、身体をひねり足を抜き、手すりの中に2才の息子を認め、救出しようとして手を伸ばした時、かなり強い圧迫のような力で海側にはじき飛ばされた。事故後すぐであるがかなりのスペースができており、倒れている人も確認できた。すぐ後ろ(海側)にいた妻は半狂乱、他の人と協力しながら折り重なった人を助け起こし8~9人目の若い男性の下から、何人かの上で宙に浮いたように半開きの目、紫色の顔で真横になった息子がいた。

顔色を見て驚き先導してくれ、エレベーターで下に降りたところ「ここまで救急車が入れない」とのことではるか西方まで子どもに息を吹き込みながら急いだが、救急車は、未到着、病院探し、病院の医師も足りず、事故から1時間位たって、手遅れですと言われた。

(男74:女71.女76.女71.女60)

午後7時30分ころ、歩道橋に到達した。20メートルぐらい海側に歩いたところで止まりがちになった。どうして進まないのか理由が分からなかった。何の案内もなく、みんながそれで苛々した。たまに駅の方に帰る人のために壁際を誘導する警備員をみかけた。警備員は、そんなことよりこの混雑をなんとかしろとみんなから言われて、逃げていなくなってしまった。全部が退がるような大きなウェーブのようなものが起こった。

ゆっくりと倒れ、乳母車と母親の手が離れたので、赤ちゃんが下敷きになるのを防ぐため、本能的に乳母車に覆い被さり、赤ちゃんを抱き上げ人の手に渡した後、人の体の上で斜めの状態に倒れ、何人が倒れたか判らない。赤ちゃんの母親は気を失ってしまい、意識の朦朧とする中で水色の制服を着た警官2名を見たのち、気を失った。そして抱き起こされ、端の方へ這い、階段を這い下りて妻を待った。

午後10時ころまで、同行者と妻を捜したが見つからず、帰宅してテレビニュースで死亡を知った。

(男32:女21.女9.女8)

午後7時35分ころ、歩道橋に到達した。入り口に2人ほど警備員がいたが、何も誘導をしていなかった。歩道橋に入りすぐに止まりがちになり、3分の1位から暑さで気分が悪くなり、半分を超えたころ、時間にして花火の終わる15分前頃から危ないと感じていた。

8才の娘を胸に抱いて朝霧駅の方を向いていたところ、前の方からのゆっくりした力で45度位に傾いたとき、一気に仰向けに、娘は胸のうえにしがみつくように倒れ、人の重みと圧力で息ができなくなり、目の前が真っ暗になり数秒と思うが気を失った。何人も人が倒れ、覆い被さってきて、周りの人達も体が半分以上埋まっていて、誰一人動けず、子どもを引っ張り出そうにも身動きもできず、下半身は痺れて感覚を失い動けなく、どうしようもなく、子どもがいることを叫び、救助を待ちました。機動隊や一般の人に上に被さっている人から順にどけるように救助されました。

子どもはそのまま機動隊の人に運ばれて行ったが、足が痺れており付いていけなかった。友人ともう一人の子どもを捜しに戻り、その後、搬送された病院を探しようやく午後11時になって収容された病院にたどりつきました。

(女34:女59.女5.男4)

午後7時45分ころ、歩道橋に到達した。入り口付近でも人はたくさん、殆ど海の方

向に向かってならんでいた。西側の方が比較的前に進んでいた。午後8時20分ごろに橋の3分の2ぐらいまで進んだところで、満員電車のようになり、身の危険を感じた。同行していた母は、事故の前と思うが警備員に「橋で止まっている人どけて!」と言ったがどうした訳か「言ってもどいてくれません」と言われた、とのことだった。

南北の方向に1・2回大きく揺れ、最後に強い南方向の波で斜めに崩れ、2~3メートル前へ押し流され、アクリル板と男性の間に挟まれお腹が潰されそうになり死ぬかと思った。周りでは、人が押しつぶされ5才の娘のいるはずの所に子どもばかり6~7人が山積みになっており、やっと子どものところに行って一番上の子を引っ張ったが、首が挟まり起こせず、少しでも娘の側に寄りたくてアクリル板をたたき割ろうとしたが「危ないからやめて」と制止された。

何分経ってしまったか分からないが、自分で子どもを引っ張り出し、救助隊員に渡したところ抱きかかえられて下に降り、人工呼吸の処置をされ、救急車に乗ったのが9時15分頃だったように思う。人生をめちゃくちゃにされた。子どもを返して欲しい。

(男42:女31.女9.男7)

午後7時45分ごろ、歩道橋に到達した。ゆっくりではあるが、海側(南)に向かって進んでいた。橋の中間をすぎて午後8時過ぎごろから満員電車のようになり、橋の南端から5~6メートル西側手すり付近の午後8時20分ごろ酸欠状態で息苦しく、駅から海側(南)と東から西への力があり、自分自身が踏ん張るのが精一杯で身動きがとれず、周囲の人は手すりの中に入れて子どもをアクリル壁に両手を突いてカバーし、あるいはアクリル壁を叩いていた、階段の下に6~7人の警察か警備員の姿があったが雑談を交わしている様子で立っているだけだった。事態は変わらず、花火が上がったら止まり、終わったら動いたりしながら南端まで押し出されてしまった。

将棋倒しが発生したことを知り家族を救出しようとしたところ、妻も押し出されてきて、手すりの中へ入れていた子供らの救出のため子供らとの間に倒れていた人を機動隊員に起こしてもらい、子供達のところまで行った。

子供達を機動隊員に運んでもらったが、事故発生から10~15分経っていた。そこに居合わせた看護婦さんに、子供達は10~20分位の人口呼吸と心臓マッサージの適切な処置してもらい、看護婦さんはお子さんを預けて救急車で病院に付き添ってくれた。救急車が来るまで1時間、病院まで約20分を要した。

(女35:男7.女10)

JR朝霧駅ホームより、ずっと混雑していたが、流れが止まってしまうのは時折で、ゆっくりではあるが進めた。橋に入って10メートルぐらい進んだころから止まりがちになり、花火が終る前から110番通報している人がいるにもかかわらず何らかの処置もとられず、花火が終了した直後で3分の2以上過ぎた所から押される力が普通ではなくなった。

倒れる前から、駅側と海岸側の両方から押され、全く身動きができない状態で、方々から怒鳴り声や子供達の泣き声が聞こえていた。駅へ戻れという声と海岸へ戻

れという声で騒然としていた。自分の子どもの姿が見えなくなり、低い位置を探そうとしても屈むこともできない。後方から押され自分の体も徐々に前に倒れ、足の上に人が乗っていて起きあがれない。後ろの3人が退くのを待って、人の手を借りて起きあがり、すぐ前の人を引っ張り起こして、子どもの姿を探し、2人ぐらい助け起こして、さらに人の下に7才の息子が顔色青く呼吸をしていない姿を発見した。

口を付けて人工呼吸を2度ほどして駅の方から来た人に助けを求め連れて行って貰い、南隣に倒れているが意識のある10才の娘を何とか起こして背負い駅の方に息子を追いかけて向かった。橋の上の人はまばらになっていたの、ずいぶん時間が経っていたと思う。駅前では息子は既に救急車に乗せられており、これに乗り込んで着いた病院では、事故発生から1時間後ぐらいと思う。

(女30:男30.男5.女4)

午後7時15分に歩道橋に到達した。少しずつではあるが止まらずに進んでいた。花火開始の45分頃から止まりだし、花火の後半から身動きがとれなくなりだし、花火終了のころ身の危険を感じるようになった。

4才の娘を抱いて橋の中ほどにいたが、人波で左右に押されて娘は挟まれる度に“グェー”と呻きながら何度も白目を剥き、気を失い、一気に南西側に押され階段の方向を向いていた。すぐ後ろは楕円形に将棋倒しが起きていた。倒れた人に片足を抱きつかれ、何度も倒れた人を踏んでしまっていた。そうしなければ立っていられなかった。

主人と長男とはぐれてしまい、探すのに必死で体の痛みが気にならなかった。家に着いた後の事故から3時間後に体のいたるところが、痛み出した。警備員は何人居ても無理で、制服の警察でないと人を制止できない。

(女72)

午後7時25分に歩道橋に到達した。ゆっくり海側に向かって進んでいた。橋の南に近づいたが余り動かなくなり、蒸し風呂状態で激しい脱水症状におちいった。周囲では携帯電話でさかんに警察に電話していたが通じず、自宅を經由して警察に連絡をしている人もいた。橋の南側では手摺りが曲がって非常に危険な状態であった。

倒れた人の東側付近にいたが、北側の方向から人混みに押され、体が宙に浮き、息苦しくなり、胸と左足に痛みを感じた。自分の身を守るのに精一杯であった。

1時間くらいかかって南側の階段を自力で下り休息して、タクシーが拾えず家に23時ごろ帰り着いた。胸と足首の痛みが消えないので2日後に診察を受けたところ、肋骨にヒビが入っており、左足首も治療を受けた。

(男40:女40)

午後7時26分に歩道橋に到達した。人と人は時にくっつく程度、少し歩き少し止まり少し歩くぐらいのところ、花火開始のころ止まりがちになり、花火が終わり自由が利かなくなり少しずつ後ろからおされ前に押し出された。

北西方向から押されたので倒れるのを止めようと踏ん張って、押している者がい

ないかと振り返ったところ3名が押していたので覚えようと顔をジッとみていたところ「警察が到着した」との声かが聞こえ、このままもてば助かると思ったときに、激しく押されて、仰向けに転倒(脚の下によその子どもがいた)し、脚の上に人が乗ってきた。脚の下には意識の無い男の子がおり脚を引き抜くと男の子は親に引き出された。

そこへ警察が来て、下へ自力で下りた。数日後にマイカーで通院した。

(男25:女28)

午後7時30分ごろに歩道橋に到達した。

事故発生直前に、歩道橋の屋根の上に登った。警官と機動隊員2~3人で人を主に西、南の方に引っ張っていた。屋根の上から下の橋内を見ると3か所に人ひとり程度の隙間があった。「北行け」コールと同時に小規模な将棋倒しが起こったと思う。群衆の揺れの感覚は45度くらいであるが、実際は20~30度くらいで主に南北方向が多いが左右もあった。ゆれを繰り返しながら総体的に南へ動いた。20秒後、同じく屋根に登っていた男性と一緒にその男性の彼女を引き揚げているとき、ウツという呻き声が聞こえた。北側の方は空いていた。その10秒後に南向きで子供を引き上げるとき、将棋倒しを見た。高さ1.5メートル、幅5メートル、奥行き7~8メートルの形は変形おにぎり型。

救助のため屋根から橋内におりて、倒れた老人や子供の人工呼吸をし、消防のワゴン車で病院まで付き添ってから帰宅した。

(女46:男48.男43.女43.女10)

午後7時30分に歩道橋に到達した。団扇であおぎながら歩道橋の中央部くらいまで進んだ。警備も警察官もいなく空いているなと思った。警備員2人が、花火が始まってから15~20分頃東側手摺り沿いを駅の方に「道をあけてください」とベビーカーなど小さい子を誘導して、戻り、また、海側から来たので、「いつ降りられるのか」と聞いたところ、階段の下は「花火を見ていて動かない」といって降りていった。

8時35分ころ、歩道橋の出口東側に居り、駅側から急に押され、海側からも押されて胸が圧迫され息ができないくらいになった。一瞬ゆるんだかと思ったら、また、ぐっと押される状態が繰り返しあり、このままでは死んでしまうと思い、歩道橋東側面のキャットウォークから朝霧駅方向へ脱出した。もう、歩道橋の人の流れは、まばらだった。

歩道橋の北側でポーとしていたら救急隊員が、重傷者を先に運ぶのでまってくれといわれ、一番後と思われる午後11時ごろ救急車で搬送された。

(女59:女29.男3)

午後7時30分に歩道橋に到達した。ゆっくりと海岸(南)に向かって進んでいた。橋の真ん中より10メートルくらい先、50分頃で止まりがちになり、5分後ころから満員電車のようになり、あと5メートルほどのところで、身の危険を感じた。

3才の孫の手を引いて駅から海岸の方向へ押された。周りは将棋倒しの状態になっ

たが、倒れていなかったが孫と離れてしまいしばらく動けず、足を下に置けなかった。となりの男性が孫を抱いてくれ、子どもを外に出してくださいと叫んだが、動ける状態ではなかった。他に、子どもを持ち上げたり、肩車をしたりしていた。

午後9時ごろ、やっと空間ができたので、自力で離脱したが、娘と孫とはぐれ帰宅した後、病院から孫が入院している旨の連絡があった。私は、4日後に受診した。

(女57:男58)

午後7時30分に歩道橋に到達した。ゆっくりと海側に向かって進んでいた。45分ころ橋の真ん中より少し進んだところで止まりがちになり、午後8時00分ころ4分の3程度進んだところで、満員電車のようになってきた。午後8時30分ころまだ余裕があった。

「何をしているんか」「前へ進まんか」という声があがった。1回目、2回目と押されて息ができにくくなった。3回目のあと体を横に向けて息ができるようになった。6回目で足が宙に浮き、駅の方から押されて横を向いていたが反対側の方向に向いた。一緒にいた夫とは離れてしまい、意識がなくなった。気が付いたときは、夫に抱かれていた。

午後9時すぎ、夫に抱えてもらって海岸の方向に行き、タクシーが見つからないので明石駅まで歩き帰宅した。自宅で3日間寝て2週間後に病院へいった。

このようなときは、強制的に人を階段から降ろしてほしい。常識を守れば、事故はなかったと思う。

(女64:女71.男76.女72.女71)

午後7時30分に歩道橋に到達した。入り口付近から止まりがちで、その付近から混雑していた。5分の3進んだところで息苦しくなってきた、身の危険を感じるようになった。

超満員の電車のような状況のなかで、乳母車が人の波に押されてきしみだした。背の低い子どもは人の間で息苦しくなり泣きわめいたりした。大人でも息苦しくなり天井を向いて喘いだりしていた。東側の柵まで逃れたが、大人達が側壁に手をつき人のトンネルを造り、子ども達を必死で守っていた。怒号や助けを求める声などで地獄のようだった。大きな圧力は、朝霧駅側から海側へであった。歩道橋の天井が開いていたので被害が少なく済んだと思われる。

特に救助されたわけではなく、自分で帰宅した。その後、家族の勧めもあり午後12時過ぎに病院へ行きみてもらった。

(男16:女51)

午後7時35～40分に歩道橋に到達した。歩道橋の真ん中あたりまでは少しずつ進んでいた。東側より西側の方が人の流れは早かった。花火が始まったころ止まりがちになり、終わったころには手を上げる隙間もなかった。

後ろから押されて倒れるとき、前にいた年寄り子どもを避けようとして身を捻ったら仰向けに倒れてしまった。一瞬、気を失ったが、頭を蹴られて気が付いた。

上に10人くらい乗っており2・3分で足の感覚がなくなってきたが痛みはあった。

警察の人に救助され、自分でエレベーターで降り、はぐれた母と合流して、パトカーで病院まで送ってもらった。

(女61:男63)

午後7時35分に歩道橋に到達した。橋の真ん中あたりまでは、海側に向かってゆっくりゾロゾロといった感じで進めたが、真ん中を過ぎて停滞し、このままでは危ないと思い警察に電話した。周囲の人も何人もが警察に電話している様子。警備員は、歩道橋入り口付近に3人いた、真ん中付近の1人は身動きできない状況で赤い棒を振っていた。

足が浮いてしまったが倒れることもなかったが、周りから押されて手も足も動かさず意識が朦朧としたときに、隙間が少しできた(将棋倒しの直後くらい)ので自力で踊り場まで脱出し、午後9時ころ階段を降りてへたり込んだ。

帰宅後も右胸の痛みがひどく、2週間後に整形外科での診断では骨折はしていなかった。

(女38:近所の友人10人)

午後7時40分ころ、歩道橋に到達した。普通に団扇を動かすくらい余裕があり、進んだ。戻れコールが起こっても、全然言うことを聞かなかった。通路の両側の人、壁を叩いて助けを求めたが通じなかったようだ。

事故現場の東端にいた。南の方向に向かって5回くらいの人波がきて事故が起こった。人によっては、倒れた人の体で息ができないような状態であった。

約1時間30分後に機動隊員によって、駅の北側に助けられた。救急車に10時20分ごろに乗り30分頃に病院に着いた。

神戸の花火大会では、機動隊が「止まらないでください」と呼びかけているように、武力を携帯した人間の言うことでないと効果がない。警備員や丸腰の警察官の言うことは誰も聞かない。階段の下では職員の誘導を振り切っていた。

(男51:女48)

午後7時45分に歩道橋に到達した。肩が触れ合う程度で、徐々に前に進めた。また、警備員は「徐々に動いているので歩道橋は通れます。」との案内であったので、そのまま歩道橋に入った。

いろいろな方向から力が加わっていたが、海岸方向に向かう力が他の力よりも強く、押し合って体が圧迫され足が浮くような状態になり自分で行動を制御することができず、周りの人と一緒に倒れ、何人もの人の一番下になり、起きあがれず30分程度そのままの状態だった。

倒れた人が、上の人から順次、それぞれ引き起こし合って動けるようになり、3回休憩をとりながら駅に出た。救急車はまだきておらず、そのまま帰ったが、翌日からあちこちが痛むので、2日後に針灸整骨院にかかった。

(女73:男44)

午後7時45分に歩道橋に到達した。午後7時20分ころ駅に着いたが外に出られなかった。花火が始まるころ、空いている西側寄りを花火を見ながらゆっくりと進んでいた。花火が上がると立ち止まり、とぎれると少し前に進み、身動きできなくなり押されるままに海側へ動いていた。

締め上げられるようになり体が宙に浮いて死ぬと思った瞬間気を失った。自分も死んでもおかしくない状況だった。

気が付いたら階段南側で寝かされていた。救急車で病院に運ばれたのは3時間後の11時ごろだったと思う。

(女33:男41.男9.女5)

午後7時45分すぎに歩道橋に到達した。ゆっくりと海側(南)に向かって進んだ。花火が始まったので急ぎたかったが、花火が上がるとそれを見て気を紛らし、散ると少し前にと、ゆっくりと進んでいた。2人分後ろにいた夫と娘の姿が見えなくなり、あちこちで子どもをかばう親の声が飛び交い、小さな子どもは泣き出し、若者は文句を言い出した。あと少しのところ、海側階段の下から上がってくる人もあり「戻れ」と言い始め、本当にやばいなと思い始めた。

駅側に向かって「戻れ」コールを起こしたが、駅(北)側から押され「悲鳴」と「なぜ!？」、南側からも強く押され、その度に悲鳴と「子どもが死んでしまうー」、そして、また駅(北)側からの力で踏ん張っていた脚が宙に浮き静止、もう一度北側からの力で、比較的ゆっくりと9才の子ども共々倒れていった。下には女の人、上には男や女の人。隣の9才の子どもが「痛い」と言いたしどうすることもできないでいると意識がなくなり、頬をたたいたら意識が戻った。周りでは「子どもが死んでしまう」「子どもだけでも助けて」との叫び声。

手を出していると引っ張ってくれたが、まだ足の上に大人が居たので起きられず、手を離し、大人がどいてから自分で起きた。吐き気もしたが家に帰り、子ども共々胸が痛くなったりして、市民病院に行き見てもらった。

(男45:女11)

午後7時50分に歩道橋に到達した。子どもと共に橋に入ったが進めず、押される形で少しずつ前へ行く。

花火が終わった後はすごい力で押され、手を動かすこともできず、押しつぶされそうでとても恐かった。駅の方からもものすごい力で押し出され、転ぶことなく階段手前のなぜか空間に出た。子どもはスリッパを片方無くしたが、押し出されて階段を降りた。

病院へは、10時すぎてサイレンとマイクの着いたワゴン車で運ばれた。

(女41:女65)

午後7時48分に歩道橋に到達した。朝霧駅のホームは混雑していたが、改札口での人波は少なくなり、ゆっくりとだが歩道橋を渡ることができると思った。

ほとんど身動きできなくなっていたところ、事故の直前に前方(海岸側)から「(階段の)下から上がってきた。」との叫び声が聞こえた。北側から海岸に向けて押された。斜めに立っているようなときに、大きなうねりの2回目に押し倒され、全く動くことができなかった。

午後9時25分に歩道橋南のテラスへ自力で移動し、座り込んでいた。1時間程度後に機動隊員がおんぶして駅改札前に移動し、30分して救急テント外に運ばれ、血圧測定され腕に札をつけられ、約10分後に消防のライトバンで病院に向かった。

(男40:女40.男12.女10)

午後7時50分に歩道橋に到達した。花火が始まった時は、まだ改札内にいた。歩道橋入り口に警備員が居たように思うが存在感はない(迂回路誘導がなかったと窺われる)。歩道橋内は4分の3まではスムーズに流れた。午後8時15分、動けなくなり110番通報をした。花火が上がっている間は、花火を見ており、混んでいるだけの状態であった。午後8時35分、花火が終わりみんなが動こうとして押し合いが始まり身の危険を感じ、110番通報をし、みんなで戻れコールをしたが効き目はなかった。

押されたり下がったりしている中で、南側の階段を上ってきた人も少しはいた。大きな力で押された後、少し引いた時に倒れた。押されながらみんなが倒れた南側に広いスペースができていた。倒れた3~4メートル北側の柵とアクリル板の間に多くの子供達がいた。

なんとか歩道橋から脱出して階段にかかったところから、知人方の男の子は柵の中で下敷きになり、女の子はその上の方に倒れていた。家族で階段を下りて避難し、警察の四駆車で駅北へ運ばれ、救急車で10時30分頃病院に着いた。

(女38:女41.男12.女9.男9.男5)

午後7時50分に歩道橋に到達した。人は流れていた。橋の途中までは普通の混み方で、西側の一列は駅へ向かう流れもあった。花火終了の頃、手すりの中に子どもを入れ、子どもは西側に体を向けて南へ横歩きしたが、その後アクリル板に顔を押しつけられ身の危険を感じた。

花火が終わってから暑くて気分が悪くなり吐きそうだった。手すりの中の子どもは東北の方から押されて頭を東南にして仰向けとなり足が手すりに引っかかり、大勢の人に乘られ、息が苦しく死んだと思ったが、観客の一人が運び出し意識を取り戻した。

南側のテントでは、後から運ばれてくる人の症状が悪く、そちらにかかりきりのため長時間放置された。ワゴン車で23時頃病院へ運ばれた。

(女14:男14)

午後7時50分に歩道橋に到達した。少しずつ海側(南)に向かって進んでいた。花火が終わる10分前ころから止まりがちになり、花火の終了する頃には満員電車のようにになっていた。

あちこちから力がかかってきた。自分より前の方が倒れ、自分も後ろから力が加

わり倒れた。すぐ後ろの人達は踏ん張っていたので倒れてこなかったが、足が踏みつけられていたので身動きができなかった。足を抜こうとしたが後ろの人の圧力で動けず、このまま帰れないかも知れないと思った。「小さい子が息をしていない。上へ押し上げて」という声で、手を伸ばし手助けをした。駅側から順に助けられたようで、後ろの男性に助け起こされた。

友達に助けられながら、朝霧駅に戻った。特に手当は受けず休憩して、電車で帰宅した。

警備員を配置して、海へ行く人と駅へ行く人の通路を分けて欲しかった。

(女41:男9.男12.女38.女9.男5)

午後7時50分に歩道橋に到達した。ゆっくり歩ける状態であった。午後8時25分ごろ子供を手すりの中に入れて守る。

9才の子供は、手すりの中で南へ押されて仰向けに倒れた。その南側には、10才くらいの女の子5・6人が倒れており、その前に赤ちゃんがいた。何人かに乗られ、脚が手すりのパイプに当たっていたらしく「痛い・・いたい」と声を出していた。

叔母が見つめて引っ張り出し、通路は空いていたので、エレベーターまで行き、下へ運んでくれた。母とは別の救急車で病院へ運ばれた。

(女21:男21)

午後8時00分に歩道橋に到達した。東側の方は混んでいたが、西側は空いていた。歩くのに支障はなかった。(時刻に疑問がある)

事故現場の手すりよりやや中央寄りにいて駅に戻ろうと体を北側に向けたが身体は南側に傾いていたところ、北から押され、同行者が首を支えて倒れるのを防いでくれたが二人とも倒れ、体は反転してうつぶせになり、沢山の人が乗っかってきて一番下になり、息ができない、死ぬと思った。倒れた時に記憶を無くす。

同行者の説明によると、しばらくそのまま倒れており、同行者と観客が協力して引っ張り出し、南側ベランダで10分待機し、警察官2人により橋の南側で15分、更に、駅北側テントで15分救急車を待ち、10時過ぎ救急車で病院へ運ばれて意識が戻った。

(女53:男59)

午後8時5分に歩道橋に到達した。海側に向かって進んでいた。肩が触れ合う程度の混み具合で橋の真ん中まではスムーズに行けた。

歩道橋西側の手すりを海岸に向けて持っていたところ、駅側から押された。海岸側の入り口付近の男の人と駅側の男の人が互いに「さがれ、さがれ」と言い合っていた。1回目に押された時つかんでいた夫の服が離れ、2・3回目と押され右足は折れそう、前の人の重心が首にかかり息が止まりそう。倒れて、両足に乳母車と人が乗っており、周りには3人くらい気絶状態で海側に向いて横になっており、周囲の人も動けずすぐには起こしてもらえなかった。

救助の人に「動けるから出なさい」といわれ、手を引っ張られて助け起こされ、応急手当は受けなかった。翌々日、病院に行ったところ肋骨にヒビが入っていた。

2 大蔵海岸から朝霧駅へ向かう人の証言

(女66:女41.男39.男3)

午後8時00分にエレベーターの下に到達した。エレベーター上の踊り場はある程度の動きがあったがシェルターの中はほとんど動いていなかった。橋に入った東側(シェルター)までたどり着いたが、進まず午後8時30分ころに身の危険を感じた。

北から南東に押され、人と手すりに挟まれ、左脇から胸にかけてかなり長時間にわたって押さえ付けられていた。足下に真っ白な人の顔がみえ、ぞっとした。少し動けるようになったとき、シェルターの外側の管理用通路(キャットウォーク)にいる茶髪の子たちに「このままでは死ぬ」といって勧められて柵を乗り越えて管理用通路に出て、しばらくして、「階段にいる人、足下に気を付けて降りてください。」との案内により、歩道橋に戻った。

駅前広場まで行き、救助している場所で横になっていたら、救急隊は「中程度」のふだを付けた。救急車の中で酸素吸入を受け10時20分頃、病院を探していると言われた。

(男53:女77.男56)

午後8時31分に歩道橋南端の踊り場において花火を見終わった。歩道橋の下には行っていない。花火が終了して歩道橋内の西側を浜側より駅(北)側へ向かって約10メートル進んだ。

人波に押されて転倒し、倒れた上に人が倒れてきた。誰かに補助して起こしてもらった程度しか覚えていない。気がついたら階段下付近に運ばれていた。階段下で休憩後、自力でJRに乗り帰宅した。自宅より徒歩で通院した。